



# なきごえ



1994

4





(撮影：土谷 正道)

- 2 — New Face ひつじの赤ちゃん
- 3 — 動物と私 鳥にとっての河川とは(長野義春)  
カバーウォッチング フクロウ
- 4 — 東京の自然と自然紹介人たち②(木内正敏)
- 6 — 退職にあたって(南野良春) (坂上 亘)
- 8 — グラフZOO 今年生まれの赤ちゃん(竹田 正人)
- 10 — 公園花だより⑪(仁田原 洋)
- 11 — ZOO DIARY

### カバーウォッチング

フクロウ  
フクロウ目 フクロウ科  
*Strix uralensis*

フクロウは夜行性なので昼間は眼が見えない、と思われがちですが、イエイエ昼間もよく見えています。モデルの“ホー太郎”君は育ての親が近くを通ると必ず、ホーホーと鳴いて挨拶をします。(撮影：長瀬健二郎)

## ||||| 動物と私 |||||

### — 鳥にとっての河川とは —

**河**川と言っても水が早く流れてしぶきをあげる早瀬や水が貯る淵にゆるやかな平瀬、それにヨシ原や樹木も生えておりとても複雑です。私の研究テーマの一つに河川の鳥類群集の研究があります。河川環境が変化すると鳥達の種類がどのように変化するか、それは何故なのか調べています。

**カ**ワガラスという少しズングリムックリした鳥は、水の中に入り餌を食べます。カワガラスが餌を食べられる環境もどのような環境でも良いというわけではありません。早瀬の環境を好み、石と石の間にある水生昆虫を食べるのです。早瀬の環境は水しぶきをあげるので水中にうまく酸素が混ざりあい、水生昆虫も豊富です。それに水の勢いが強いので、水の力をかりて石をひっくり返すこともできるのです。もし、河川が淵の環境ばかりになるとカワガラスは生息しにくくなります。

**逆**に早瀬の環境ばかりになると困る鳥もいます。普段は木の上に止まり、水の中に飛び込んで魚を取るヤマセミは、淵の魚が集まる環境



長野 義春 さん

(総合環境研究所環境計画部研究員)

で餌を取ります。ですから、早瀬の環境ばかりになるとヤマセミは生息しにくくなるのです。これらの鳥は河川を餌場として利用しているのですが、他の使い方をする鳥もいます。

**ナ**ベヅルは昼間は水田などで餌を取っているのですが、夜になると中州の下流側で足首を水につけて、夜ネグラとして使うのです。鹿児島県出水市渡来の米ノ津川にネグラをとるナベヅルは、近くの水田で餌をとっていますが、何か危険を察知すると川の中州に避難します。川を流れる水のためにキツネなどの天敵から身をまもることができるのです。7~8月の京都府宇治川は日没近くになるとどこからともなくツバメがやってきます。そのツバメ達は群れをなし、何十万羽という数になりヨシ原の上を飛びまわります。そしてある時スッとヨシ原の中に入り身を沈めるのです。さっきまでツバメの声でうるさかったヨシ原が急に静かになり、虫の声しなくなります。ツバメも河川のヨシ原をネグラとして使うのです。オオタカは山の鳥なんて印象があるのですが、この河川においても狩を行い餌を得ます。オオタカにとってカモ類などがあつまる河川は重要な餌場なのです。鳥にとっての河川とは、ある時はネグラとして、ある時は避難所や餌場として、一見関係なさそうな鳥でも様々な形で利用しているのです。

**近**年、河川をより自然に近い形に戻し、より生物が生息できるようにしようといったプロジェクトが行われています。鳥と河川の研究は、こういったプロジェクトに役だっています。

(ながの よしはる)

### ヒツジの赤ちゃん ウシ目 ウシ科

ヒツジ、ヤギ、トカラヤギ舎では、次々赤ちゃんが生まれ、11頭にもなりました。写真は3月3日生まれのヒツジです。



昨年9月号で小林さんが東京の自然環境を5つのゾーンに分け、そのうち「奥山」と「都会」のゾーンの自然や活動を紹介しました。

今回は残りの「島しょ」「埋め立て地・海岸間」「里山」のゾーン中で「里山」の自然と人々のふれ合いについて紹介しましょう。

### ◆東京の里山(丘陵)

最後の氷河が去ると関東地方には広大な平野が出現しました。そして隆起によって形成された段丘面は再び浸食され200~300メートルの丘陵が形成されました。

東京の丘陵は山地が平地に接する部分から、低く平らな丘陵が続く独特な景観になっています。

### ◆里山の自然

ここで里山と呼ぶところは丘陵地とその集落を指すことにしましょう。

東京の丘陵は多摩、加住、草花、狭山丘陵などです。都心の高いところから眺めると多摩川を囲むように平でなだらかに広がっています。

しかし、実際に歩いてみると段丘の面があったり、多摩川の支流がさらに丘陵を削って小さな谷を造っていたり、入り組んだ地形になっています。

丘陵のすそや平坦な所は人家や畑が、わき水の出る谷には谷戸田(やとど・谷津田ともいう)と呼ばれる水田が細長く見られます。

そしてこれらの畑や谷戸田を包むように雑木林が広がっています。少し前までは雑木林の中にカヤトの原があり家畜の餌や炭だわら・堆肥の材料にしました。

### ◆里山の暮らし

東京は平野部が早く開け、都市化したのに対し、里山地域は最近までその姿をとどめてきました。

里山ではどんな営みがされていたのでしょうか。



谷戸田の稲刈

数百年もこの里山の暮らしは続いてきました。化学肥料もなく、毎年畑や水田を耕していたら肥料が切れて作物ができなくなってしまいます。

どうして続けてこれたのでしょうか?

その秘密は雑木林にあります。

雑木林を里山の人々は様々な用途に使っていました。

いちばん大切にしたのは落ち葉です。落ち葉は毎年落ち葉かきをして集め堆肥にしました。それを家畜のし尿などとともて畑や水田の肥料として利用してきたのです。

林の木は15年ぐらいたつと切り倒します。材は炭や薪などの燃料、キノコのほだ木に使われました。

そしてこれらの農産物や炭や薪を町で売り、山里で必要な物を買って暮らしを支えてきました。

### ◆雑木林のしくみ

でも、雑木林の木を切り倒し、落ち葉をはいて利用し続けたら、こんどは雑木林の自然が壊されて失われてしまうのではないのでしょうか。

そこが大事なところなのです。

実は、里山の雑木林は昔からあった自然の林ではないのです。

雑木林から薪や、落ち葉を利用し続けるにはどのような性質の木を選んだら良いでしょうか。

里の人々は長い経験と自然の知識から雑木林に適した木を選んできました。それは、切り倒しても切り株からまた芽を出してすくすく育つ性質を持ったクヌギやコナラ・ケヤキ・ヤマザクラなどの樹種です。

ですから雑木林は自然の林と違って、伐採され



雑木林の伐採作業

た林の切り株から木の芽が出てきて再び林が回復するのです。雑木林の木の株を見ると丸く大きく膨れたようになっているので、何度か切られた様子がわかるでしょう。

毎年同じところから落ち葉を集めるとどうなるでしょう。

落ち葉は地面に落ちると腐って栄養のある柔らかな土になります。

毎年はいって集めてしまうと土壌が失われて林の成長によくないことがわかりました。そこで、同

じ場所からは集めないで、3~4年おきに集めるようにしています。

畑や水田を作るためには多くの堆肥を必要としました。田畑の何倍もの面積の雑木林が必要だったので丘陵のほとんどが雑木林やカヤトにされ、とても大切にされてきました。

このように雑木林は継続的に木を切ったり、落ち葉を利用することができる林になっています。しかし、大事なことは雑木林が回復するといっても「ニワトリと金の卵」の童話のように欲張りすぎると自然が壊れ、元も子もなくなるということです。

ニワトリはエサを食べて金の卵を産みました。雑木林は土壌の水分や養分をもとに太陽エネルギーを食べて木や葉を生み出します。

つまり里山では経験的に雑木林から毎年、太陽がくれたエネルギーで育った分だけ「金の卵」として利用しているのです。

### ◆里山と生き物

さて、里山にはどんな生き物がいてどんな生活をしているのでしょうか。

里山の生き物も人と自然の密接な関わりの中で生活しています。

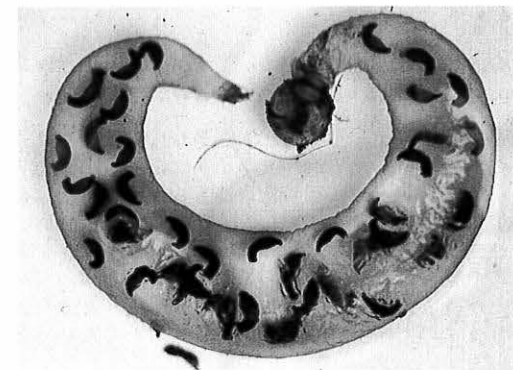
早春の雑木林の中ではスプリング・エフェメラル(早春植物)と呼ばれるカタクリやオキナグサ、またシュランやエビネなどが咲き競います。その後キンランやギンラン、秋にはリンドウなどが美しく咲き殺風景なはずの雑木林の中は意外とにぎやかなのです。

カタクリはなぜ雑木林で生き続けることができたのでしょうか。カタクリは早春の1~2月の短い期間に生育します。カタクリにとって他の植物が芽を出さない早春の暖かく明るい雑木林は都合の良い生息環境なのでしょう。

15年ほど育った林は伐採します。その場所はしばらく明るく低い林となり、雑木林の所々に見られます。暗いところが苦手なリンドウなどはこの明るい低木林で元気に育つことができます。

では谷戸田と生き物の関係はどうでしょう。

谷川では水溜りにヤマアマガエルやトウキョウサンショウウオ・ヒキガエルが産卵します。谷



トウキョウサンショウウオの卵カイ

間に作られた谷戸田ですが平地の水田と違って冬でも水を落とさずに浅い水溜まりがあるのでカエル達が卵を産みにきます。初夏、田植えの頃の谷津田にはシュレーゲルアオガエル、モリアオガエル、トウキョウマガエル、アマガエルなどが産卵のために集まってきます。

そして、フクロウやオオタカはいつごろ、どこにカエルが産卵に来るのかわかっていて、谷戸田は蛙をとるのに都合のいい狩場になっています。

もちろん、里山になる前にいた生物で、人が住み着くと、減ってしまったものもいたでしょう。しかし、里山の自然利用は前で述べたように自然の仕組みを理解しながら進められたので多くの生き物が一緒に生き続けてこれたのです。

### ◆里山体験

私たちは里山で農家の人たちとの作業を手伝ったり、自然を観察する体験活動を始めました。里山での作業は里山の人々が自然と共存してきたさまざまな知恵を経験できるからです。

雑木林の伐採作業を手伝いました。ノコギリで立木を切っていくと深く切り込むほどノコギリは重く、少しぐらいの力では動かなくなりました。



丸木を切る子供たち

思わず額の汗を拭ってもうこれまでと諦めかけると思わずにきてくれた農家のおじさんが「さあ、引いてごらん」と木を押すと、嘘のようにノコギリが動き出しました。切り倒した木をさらに1メートルほどに切ります。ずいぶん木を切った気がしました。それでも1日、20~30人で寄ってたかって切れた数といえば十本ほどでしかなかったのです。

この木を薪にしたり、炭にしてみんなに分けたらどのくらい燃える量になるのだろうか。そう考えると人の作り出せる物って少ないんだなと感じました。

みなさんも里山の人々がたどってきた道をもう一度たどりながら人と自然について考えてみませんか。

里山での作業は体を使うので大変だけどおもしろいですよ。

(きうち まさとし)



## 天王寺動植物公園事務所を去るにあたって

**昭**和32年4月に私は土木局動物園管理係に臨時職員として採用されました。その当時は大変な就職難の時代でしたので希望に夢をふくらませて勤務したことを覚えています。昭和32年頃といえばまだまだ動物園もお粗末なものでしたが、戦後もようやく落ち着き、人々が地方から都会へ都会もと集まって来るようになり、動物園も数少なかった娯楽を求めて毎日にぎわっていました。その中でチンパンジーの“シュージー”が、午前と午後の2回ステージで竹馬や三輪車を上手に乗り回し、子供たちをはじめ入園者から喝采の拍手をあびていたことを思い出します。また、今の“鳥の楽園”（バードケージ）の横にサンフランシスコ市から贈られたケーブルカーが展示されており、子供たちは手で触れてみたり中に入ったりして見学をしていました。当時は娯楽設備が少なかったので休日など動物園は大変にぎわっていました。



昭和32年頃、園内での抽選会風景（中央が筆者）

私も管理係としていろいろ思い出はつきませんが、連休になった時は入園者はたいへんな数にのぼり、閉園後はごみの山が残りました。清掃作業は職員の方にも応援してもらって閉園後か翌日の早朝出勤をして行いました。動物園はごみだらけと悪名を頂戴したものでした。その後、ごみ箱をいたる所に設置したり、ごみを無くするための「クリーンキャンペーン」を行うなどいろいろな改善を行い園内は見違えるようになりました。ごみの落ちていない園内を眺めほっと安堵したものです。

**現**在昔の面影を残している所は、サル島、象舎、キリン舎あたりなどで、私にとっては思い出深い場所です。平成元年までは南園と北園は地下道でつながっていました。ある時大雨で浸水し、排水作業に苦労したことを思い出します。現在は立派な新世界ゲートとして整備され昔地下道があったことなど想像もできません。また、南園のサル島のそばを通るたびに昭和43年のニホンザルの（集団）脱走を思い出します。毎日網を片手に市内をあちこちと夕暮れまで捕獲に走りまわりました。その時の飼育係の方々の苦労は並たいていではなかったと思います。

また、昭和35年伊勢湾台風の時には大木が動物舎に倒れ、一刻も早く取り除かねばならず連日遅くまで後片付けに追われました。

その後動物園も檻式の動物舎から放養式の動物舎に生まれ変わり、魅力あふれる動物園になりました。

振り返れば私が勤務してから8年後の昭和40年に開園50周年記念行事がありました。その時に天王寺グラウンドが動物園に編入され、面積は開園時の4倍の10万4,000㎡と西日本では一番の広さに拡大され半世紀の節目にふさわしい記念すべき年になりました。

昭和45年には大阪で万国博覧会が開かれ、いざなぎ景気も手伝って大阪は活気に満ちあふれていました。博覧会を機に世界各国と動物交換が活発に行われ、新しい動物が来る度に入園者に話題を提供しました。

昭和32年からの動物舎改造9か年計画工事が次々と行われ緑がすっかり少なくなった園内を眺め、管理にたずさわる者として寂しい思いをしたものです。その後“花と緑の動物園”をスローガンに私達も一日も早く動物達と植物の調和のとれた動物園にするため植樹、花壇の増設などを行い、いかにすればよりよい環境を市民をはじめ入園者に楽しんで頂けるかを考え努力しました。前年植えた樹木が春には新芽が萌えることは何よりの感激でした。

こうして飛躍する中20年も前に建て替わった動物舎も段々古くなり、また、新しくしなければならず、動物舎の活性化計画が立てられました。昭和62年には天王寺博覧会が天王寺公園と動物園を会場に行われ開幕後、天王寺公園の再整備が行われました。その後平成2年2月に天王寺公園と動物園の管理が一体化され、名称も天王寺動植物公園事務所となりました。平成3年11月には茶臼山に新事務所ができあがり、職員数も150名の大世帯になりました。平成2年の夏から公園の夜間開園



平成6年1月、園内での研修の講師として

を行っています。今年少し入園者がのびません。昼の公園も見事ですが、夜ライトに照らし出される噴水それから慶沢園の光景はもっと大勢の方に見て頂けたらと思います。

**最**後に今年は関西国際新空港の開港の年に当たり国内はもちろん国外からも来園していただけるよう、また来年は動物園80周年記念となりますので無限の躍進を期待して終わりたいと思います。

（管理課 前首席主任：南野良春）

## 動物の暖房にたずさわって37年

**私**が天王寺動物園に臨時採用になったのは昭和32年7月5日です。動物舎の暖房のためのボイラーを担当するように命じられましたが、全く経験のない職種で、もちろん免許も持っていませんでした。人事担当者から本務採用になるまでには必ず資格を取るよう言われ、テキストを買ってきて冬、ボイラーを焚きながら勉強して、翌年の夏に免許を取ることができました。当時の動物園は現在と比べると雲泥の差で、例えば園内清掃も大八車を引いて行っていましたし、餌料運搬もリヤカーを引っ張って行っていました。動物舎もお粗末で、風の強い日はすきま風が入って、いくら暖房しても温度が上昇しないので苦勞しました。私が採用された年にボイラー担当者は3人増員になり先輩4人と合せて7人体制でボイラー作業を行うようになりました。最初の1年目は夜間勤務でした。厳しい職場と聞いてはいましたが聞きしに勝る職場でした。夜勤は午後10時から翌朝まで



昭和36年頃の火入れ式にて（後列中央が筆者）

ですが9時には出勤し、1日に焚く石炭の搬入作業を外灯のもとで行わなければならないので、とてもたいへんでした。次に室内に山積になっている灰を搬出するのですが、埃が舞い上るので水を打ち、モッコで半地下のボイラー室から運び出すのにたっぷり1時間はかかりました。石炭ストープをたいている動物舎には、バケツに石炭を入れ各動物舎へ運ぶのですが、これも大変な仕事でした。その作業が終ると当時は、南園にもボイラー室がありましたので、北園2名と南園1名と分れて仕事に着きました。

**動**物舎の温度をチェックするために巡回しなければなりません。初めて仕事についた頃とてもびっくりしたことがありました。小鳥舎に入った時です。急に「こんばんは」と声をかけられました。私はびっくりして「誰だ」と答えたのですが返事はありません。その時は背中から冷汗が出たことを思い出します。後日皆んなに話すと誰でも同じ経験したとのこと。飼育しているオウムがしゃべったのです。分っているも深夜1人でそれを聞くとびっくりしたものです。

深夜動物の様子を見ると動物舎の温度がよく分ります。例えばチンパンジーが寝台の上で毛布を頭からかぶって寝ているので、少し室内温度を上げてやると今度は大の字になって寝るようになり、カバがラジエターの近くで寝ているので少し温度が低いかなと思って温度を上げてやると少し離れて寝るようになります。このように温度計を見なくても暖房の状態がよくわかります。今も元気にしているチンパンジーの“シュージー”は

昼に私たちが部屋に入ると担当者がいるので攻撃的ですが深夜に入ると非常におとなしく、昼とは全く異なります。私たちの方へそっと手を差し出してきたものでした。一番困ったのは当時は治安が悪かったので、深夜巡回中に不法侵入者とよく出合いました。素直に園外に出て行けば門を開けて出しましたが、酔っぱらってトラブルを起しそうな場合は仕方がないので、天王寺警察署のパトカーの出動を願い引取ってもらったことも度々ありました。夜間南園のボイラー室の横には飼育の職員も1人宿直していました。よく朝5時頃まで世間話をしてつきあってもらったこともありました。

**危**険物を扱っているので厳しい指導をされたのですがつらい思いもしました。今考えれば今日まで事故無く退職できることは厳しかった先輩のおかげだと感謝しています。更に困ったことは、今でもそうですが事前に1か月の勤務予定を組みますので風邪や病気などで突然休むわけにはいかないのです。昭和40年頃体調を悪くし入院しましたが医師の許可をもらって病院から出勤し、仕事が終るとまた病院に帰ったこともありました。昭和40年までは石炭ボイラーを使っていたので、気を付けて焚いても煙突から煤煙が出て悩まされました。夜が明けて園内に出て見ると一面黒い雪が降ったようになっていたり、近くの歓楽街の新世界から干していた洗濯物が汚れていると苦情が入ったり、芝居小屋からは楽屋にススが落ちてるから見に来いと怒られたこともたびたびありました。正月には若い娘さんが晴着で入園されている上からススが落ちるのを見て悪いなあと思ったことも度々あります。

**例**年5月15日にボイラーの運転が終ると夏季作業に入りますが昭和36年頃までは飼育の応援と当時あった大工職の手伝いなどをしていました。私達が入る前はペンギン舎の冷房機の管理だけだったようです。また、1年間だけでしたが水禽舎を担当したこともありました。その後、動物舎の補修を手作業でしたことが始まりで事務所の要請で本格的に施設整備を行うようになりました。溶接作業の経験があった係員を中心にガス溶接から電気溶接と溶接全般ができるようにとウェルダ（溶接用発電機）を購入し、人除柵の補修から動物舎の鉄扉の取替え、運動場の雨除けの屋根の設置や藤棚の設置など、今まで業者委託していた作業を我々ですることになりました。



溶接作業中の筆者

**長**い間には思い出やできごともしろいろありましたが深夜ペンギン舎の冷房機が故障し、霞町の製氷会社ヘリヤカーを引張って水を買に行ったことが印象に残っています。最後に36年余りの長い間勤められたのも多くの人々の協力があればこそと感謝の気持で一杯です。近代的になった動植物公園が益々発展されん事と皆様方のご健康を祈りながら終らせて頂きます。

（飼育課 前主任：坂上 亘）



# グラフZOO 今年生まれの赤ちゃん part.1

今年もたくさんの赤ちゃんが生まれています。今回は、とりあえず1月から2月に生まれた赤ちゃんを紹介します。(撮影：竹田 正人)

ヤギ  
*Capra hircus*



1994・2・7

2月7日に生まれた双子です。生まれて1ヵ月もたつと、子供同士で頭突きの実習が見られます。

トカラヤギ  
*Capra hircus*



1994・2・8

2月8日に生まれた双子です。昨年の暮れから次々誕生しています。



1994・2・12・14

ヒツジ  
*Ovis aries*

2月12日と14日に生まれました。まだまだたくさん生まれそうです。

フンボルトペンギン  
*Spheniscus humboldti*



1994・1・16・17

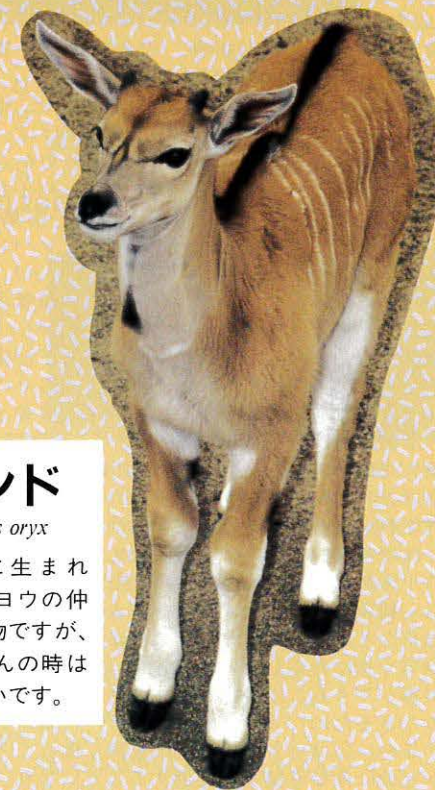
1月16日と17日に別々の巣でフ化しました。当園で今年最初に生まれた動物です。フ化当日はヒナの泣き声で確認しました。

バーバリシープ  
*Ammotragus lervia*



1994・2・25

2月25日に生まれた双子です。野生では北アフリカの荒れた丘や岩山で生活しているせいか、この赤ちゃんも生まれた日には急な斜面も母親について登っていました。



エランド  
*Taurotragus oryx*

2月10日に生まれました。レイヨウの仲間です。最大の動物ですが、やはり赤ちゃんの時はとてもかわいいです。





★ 沈床花壇植付けと管理

天 王寺ゲートから入園しますとすぐに沈床花壇が目に入ります。来園者の方々に見て楽しんで頂きたい、美しい花壇を作りたい、という願いから年間3回~4回植替えをしています。現在はパンジーが花盛りで春の喜びを伝えるように、ひらひらとした柔かな花を咲かせています。パンジーは、誰からでも好れる春の代表格の花です。

一つの花に三色を宿したその模様が愛らしく可愛い花です。植込み面積222.2㎡



に黄色4,000株、赤色3,000株、白色3,000株、青色2,000株、合計12,000株を植込んでいます。

パンジーは秋播き、春咲きの一年草で、暖地では7月下旬から8月上旬に種を播けば、その年の内に咲きますが、普通は、9月上旬から10月中旬に種子を播きます。種子はゴマ粒より小さいのでバット状のシートパンに播きます。腐葉土、赤玉土(小粒)、を半々にした土をシートパンに入れて平らにし3cm間隔に深さ5mmの溝をつけ、そこに丁寧に種子を並べながら播きます。種播きが終わったら溝に土を入れて全体に軽く土を押しつけ腰水をし雨のかからない所に置きます。芽が出てくるまで新聞紙でおおいます。芽ばえたらそのままおき本葉が2、3枚になると3cm間隔に植替えます。本葉5、6枚で2回目の植え替えを5cm間隔で、本葉7、8枚で3回目の植え替えを10cm間隔で行います。この間10日に一度程一株当り小さじ一杯の化成肥料か配合肥料を与えます。沈床花壇のパンジーは昨年11月下旬に定植したのですが、定植の下準備は3日位かかります。先ず20cm~30cmぐらい耕運機で耕します。大きな土の塊は砕き小石雑草などは取り除きます。このまま一週間ぐらい空気や雨にさらしたいのですが(十分に土の日光消毒ができるし土の塊を風化させて自然に砕く事もできるため)、何も植っていない花壇をお見せするわけにはいきません。土を深く掘ることは根が十分に伸びる場所を提供することになり、草

花はよく育ちます。10cmぐらい耕した程度では充分に根は伸びられず、満身に育ちません。花の数も少なく花も小さくて開花期間も短くなってしまいます。ここでは1㎡当りについてお話しをします。次はバケツ10ℓ1杯のパークミン、推肥、化成肥料50g、熔燐肥コップ1杯を全面にまき耕運機で全体を混るように耕します。酸性土壌を中和させるために消石灰を使っていますが、消石灰を多用するとかえって育ちが悪くなるので、土の表面がわずかに白くなる程度に両手で一ぱいすくいまいていきます。パークミン推肥を入れるのは空気を大量に取り入れるためで、水もちも良くなり、逆に水はけも良くするためです。次はレーキを使って中心が30cm位高くなるようにならし自分の足で踏み固めないように注意しながら整地をします。花壇の植え方には一直線に植える正方植えと互いちがいに植える千鳥植えの二つの方法がありますが、沈床花壇では正方植えにしています。一直線に並ぶように植えないとせつかく植えた苗の線がチグハグになったり隙間が出来て見苦しい花壇になって手直して植替えたりすると余計な労力と時間が掛るので最初の基準を慎重に決めて植付けることが大切です。最初に棕呂縄を張り、縄に沿って移植ゴテで植え穴を掘り1株ずつ丁寧に10cm間隔に植込んでいます。苗の根元の土は堅く込めなくて軽く押えて植込み移植する前は水やりを忘れて行って植えた時は控えめにします。苗を植込んでから根が張るまで早いもので3日~4日、遅いものは2週間前後はかかります。この間は気を付けて見てやり、土が乾いている時は苗がしおれないように水をやります。肥料は苗の時には大切なものですが、十分に株の出来上がったものを花壇に植えてからはあまり必要はありません。しかし、3、4ヶ月経ってながめようとする沈床花壇では、大雨などで肥料分が流され不足してくるので、その時は追肥を施しています。肥料が不足してくると葉の色があせて見苦しくなったり、つぼみの育ち具合も悪くなってきます。この時の肥料は多く施すと根腐れを起すので気を付けなければなりません。肥料の効いた花壇ほど雑草かはいるので年内に一回と春数回は草取りを行っています。同時に根元の固い土を中耕しています。高温で雨が多いと病気と害虫が出てくるので殺虫剤として、殺ダニの薬、あぶら虫用の薬、病を防ぐ殺菌剤、ボトリチスなどを散布しています。同じ薬を続けて散布すると抵抗力がついてくるので同じ薬は続けてやらないようにノートに散布した薬剤名を記録しています。パンジーが終わると5月の連休明けにはアサガオによく似たベチュニアに植替えを予定しています。

(管理課：仁田原 洋)



2/1. 1月24日に日本モンキーセンターから借り受けたドリルのメスを一般公開しました。

2/5. キジバトを2羽保護しました。

2月7日 昨年7月にシンガポール動物園から贈られたチンパンジーの母仔を初めて屋外展示場に出しました。



最初は怖がってなかなか寝室から出てきませんでしたが、最後には慣れたのか一番高い木の枝に登るようになりました。これまではサンルームで展示していましたが、これから徐々に屋外展示場に慣らし、やがては他の仲間のチンパンジーと同居させる予定です。

2/7. ヤギの双仔が生まれました。

2/8. トカラヤギの双仔が生まれました。

2/9. 1月16日と17日にふ化したファンボルトペンギンのヒナの姿を確認しました。ふ化当日は、親たちが興奮しヒナを踏みつぶす恐れがあるため、鳴き声だけでふ化の確認をしていました。

2/10. メジロとユリカモメを1羽ずつ保護しました。

2/11. キジバト、ドバト、ユリカモメ、ホシハジロを1羽ずつ保護しました。

2/12. ヒツジが1頭生まれました。

2/13. ユリカモメを1羽保護しました。

2月14日 “鳥の楽園”で展示しているシュバシコウの繁殖シーズンが近づいてきたため、営巣場所として利用している擬木のネットに巣材の柳の小枝を上げました。巣材をもらったシュバシコウはくちばしを器用にを使って巣づくりを始めました。



2/14. ヒツジが1頭生まれました。

ツグミを1羽保護しました。

2月16日 夜行性動物舎

でエジプトルーセットオオコウモリが1頭生まれました。これは当園では初めてです。赤ちゃんは母親の翼の中にいるので見えにくいのが残念です。



今月もおもしろ情報満載

ZOO DIARY



2/16. 1月15日に保護したキジバトを自然復帰させました。

2月18日 若いライオン3頭を成獣のメス2頭と入れ替え、檻式展示場から広い屋外の



展示場に移しました。これは檻式の展示場が狭くなり十分な運動ができなくなったためです。

2/18. ドリルが交尾しました。1月に導入したメスのドリルがいい刺激になったようです。

2/20. 動物園のおじさんのお話で「トラウォッチング」と「バードウォッチング」を行いました。

2/22. ヤマネコ類の定期検便をしました。

2/24. フラミンゴが強風で飛んでいかないう翼の一部を切りました。

2/25. バーバリシープの双仔が生まれました。

2月28日 ダマジカの子を姫路セントラルパークから寄贈していただきました。これは



昨年オスが死亡し、メス2頭だけになっていたためです。検疫が終わり次第シカ舎でメス2頭と見合いをさせる予定です。

2/28. 2月5日に保護したキジバトやツグミなどを自然復帰させました。

■お知らせ■

●動物園のおじさんのお話

「小鳥の話」

日時：午後1時から

場所：レクチャールーム

●テレフォンサービス 06-771-9999

愛ある暮らし、応援します。

# Kintetsu

近鉄百貨店

DEAR LIFE BOOKS



## 生態・飼育・図鑑が一つの本の 中にギッシリ

中川道朗・岩合徳光／監修  
B5変型判・オールカラー  
定価680円

動物園で暮らす様々な生き物達、  
自然の中ではどんな暮らしをして  
いるのか？ 動物園での世話  
の仕方は？ 仲間はず？ など、  
写真と精密イラストをまじえ紹  
介します。

くらしかいかたシリーズ<既刊本>

B5変型判・オールカラー・各定価680円

### むしくらしかいかた

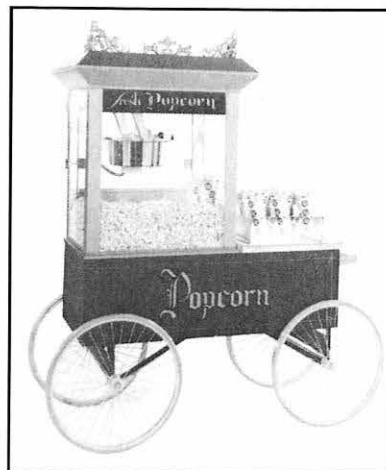
野山でみかける身近な昆虫たち  
250種を紹介。

### ちいさないきものくらしかいかた

昆虫以外の小さな生き物を320  
種紹介。

お求めは、お近くの書店で。

☆ひかりのくに株式会社 本社/〒543 大阪市天王寺区上本町3-2 ☎06-768-1151代表



## マスターのポップコーン



〈営業品目〉 製造機械・保温機 他  
生コーン・袋詰ポップコーン・原材料一式

(株)増田食品 〒561 大阪府豊中市穂積1-10-30  
TEL (06) 865-0165

オートフォーカスカメラに

## フジカラー SUPER HG 400



ピントが合いやすいフィルムです

カラの大林

桜橋本店 ☎341-8091  
阪急三番街店 ☎372-5031  
OHVAC店  
(ギャレ大阪) ☎346-7606

動物の生態を描く唯一の文学雑誌

# 動物文学

昭和九年平岩米吉によって創刊

本誌は生態研究を基礎として動物文献を収集整理する  
とともに、シートン、ザルテン、バイコフ等の諸作家  
を紹介した本邦動物文学の母胎です。

〈研究・考証・記録・随筆・翻訳等を掲載〉

会費/年1,500円 (切手72円・呈既刊号目次)

## 動物文学会

〒152 東京都目黒区自由が丘3-12-2 電話03(3717)1659・振替・東京5-9800

新作

貸出用ビデオ「楽しい天王寺動物園」  
19分(10本常備)

- 対象/保育園・幼稚園・小学校の先生
- 貸出期間/10日間
- 貸出料/無料(但し郵送料480円は必要)
- 申込先/当協会まで手紙かハガキでお申込下さい。

コアラテレホンカード(限定販売)  
好評発売中 ¥800(50度用)

## 天王寺動物園の本

入園の記念・手引に……

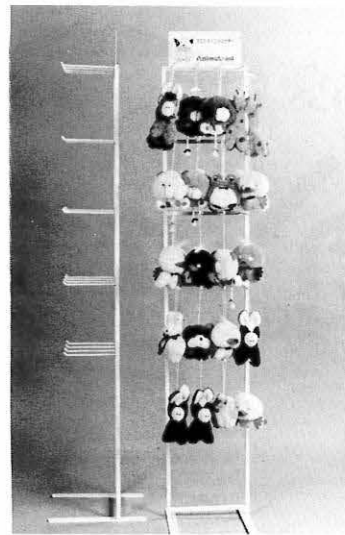


オールカラー

500円 園内売店にあります。

大阪市天王寺動物園協会 〒543 大阪市天王寺区茶臼山町6-74 ☎(06)771-0201



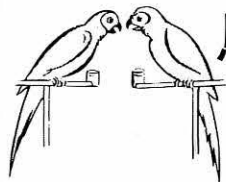


# 動物ぬいぐるみは 子供のゆかいなお友達

各種ぬいぐるみ企画・製造・卸

有限会社 **アニメランド**

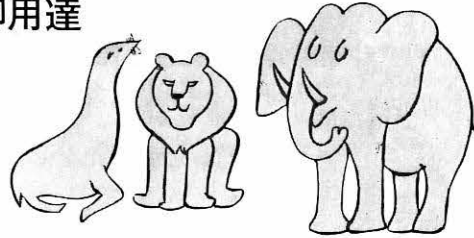
〒547 大阪市平野区西脇4丁目5番22号  
TEL: (06)704-8580  
FAX: (06)704-8565



## 鳥獣輸入

全国動物園水族館御用達

- ・医学実験用動物
- ・宣伝用、テレビ用、貸動物
- ・原色世界雑類図鑑(34種1枚もの)要郵便券250円

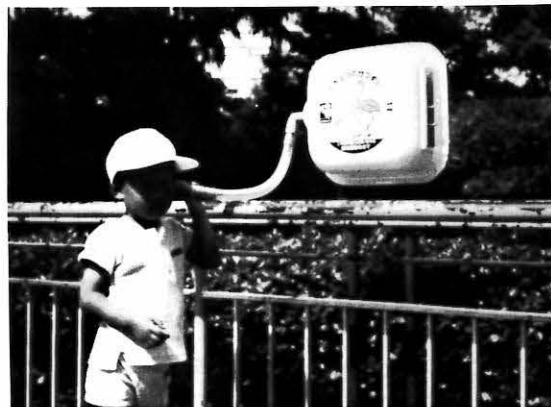


## 有限会社 吉川商会

本社 神戸市中央区中山手通3丁目11番4号  
飼育場 兵庫県小野市来住町1513番地

電話(078)221-8195(代)

### たのしい動物のお話は、 ガイドマシン(動物説明機)で、どうぞ!!



園内、主要動物舎  
30数カ所にあります

関西特機株式会社  
電話 06-762-2333  
1回 20円

### 動物園内での お食事、 ご休憩は



動物園内.....

## 中央売店

TEL 06-771-0973

お食事・飲み物・おみやげ 動物園内  
**南園売店** TEL 06-771-7110



Happy 1  
こーら、かわいい! 親子ペアで当たる。当たる。  
**ケン・ドーン  
オリジナル・トレーナー  
プレゼント!**  
ケン・ドーンのオリジナルトレーナーが  
抽選で当たる。  
賞金  
2,000円  
8,000円

Happy 2  
コアラのふるさとへようこそ! クイズで当たる。  
**カンタス航空で飛ぶ  
オーストラリア・ツアーご招待!**  
クイズに答えて、抽選で  
コアラのふるさとオーストラリアへ。  
景子100名  
200名様に







Our Yogurt has fruity  
and rich texture!!

“生イキヨーグル”と  
覚えてね。



「ほりたてミルクのおいさが、生きている。」

雪印  
**オグーラル**

希望小売価格 130g/各120円 250g/各220円(税別)



HJIRI-KOJIMA

一日  
愉快地  
たのしめる!!



◎園内3ヶ所(南園高架下・北園中央デッキ北側・北園高架下)に各種のりものがあります。

久竹娛樂株式会社  
TEL(06)541-3938(代)

なきごえ 1994年4月10日発行(毎月10日発行)第30巻 第4号(通巻344号)

編集/大阪市天王寺動物園事務所

発行人/大阪市天王寺動物園協会 土井良彦

印刷所/株式会社 松村善進堂 定価150円(送料共) 1年継続(12部) 1,650円(送料共)

〒543 大阪市天王寺区茶臼山町6-74

電話 大阪 (06) 771-0201

振替口座 大阪 3-3 7823

編集委員 (中山良三郎/岩倉善樹/中尾啓一/樽本 勲/中川哲男/吉本昌俊/山根和弘/谷森 進/宮下 実/長瀬健二郎/榎原安昭)  
森本委利/竹田正人/永田健一/前田 茂/大野尊信/野口秀高/早川 篤/堀内智生/村上勇一/土谷正道/仁田原洋)